

【実践報告】

人間福祉学科における就職支援に対する満足度向上のための方策と その実施・検証についての報告

坂井 晶子 太原 牧絵 河内 佑美
Akiko Sakai Makie Tahara Yumi Kouchi

キーワード： 就職支援 満足度向上 将来像 検証方法、実践報告

I. はじめに

2011年1月中央教育審議会¹から、「今後の学校におけるキャリア教育・職業訓練の在り方について」が答申され、全国の高等教育機関の大学や短期大学が社会的・職業的自立に向けた指導等に取り組むための体制を整備することが求められ、平成23年度4月から施行されている。答申では、「重点を置く機能や養成する人物像・能力を明確化し、職業教育の充実を図ることが重要で、また、職業意識・能力の形成を目的としたインターシップや課題対応型学習等、実践的な教育の更なる展開が期待される。さらに生涯学習ニーズにこたえていくことも重要な役割である。」とされている。

松田ら²は、自己探索が高得点の学生は「大学生生活全般への適応」という、大学生活に対する適応の得点及び「専門職への志向」、「職業の継続性」というキャリアに対する適応への得点が高いと報告している。これは、大学生の早い段階において、自分がどのような興味や能力、価値観を持っているのかについて探索する機会を持つことの必要性を示している。さらにそのことが、大学生生活の適応にもつながっていくことを示唆するものである。

本学人間福祉学科では、BMS (Bunkyo Management System) の学科における取り組みとして2019年度より「就職支援に対する満足度向上のための施策の策定と実施・検証」をテーマに3つのプログラムを展開し、その実行後にアンケートを行い、分析した上で次年度の計画に反映させてきた。このプログラムは、以下の通りである。①人間福祉基礎演習の授業：1年次前期に実施。2回分の授業を、福祉現場で活躍する卒業生の講話の時間にあてること、②相談援助の基盤と専門職の事前学修：1年夏期休業中に福祉施設・機関等へのボランティア活動に参加すること、③人間福祉学会：例年10月に開催。専門職分科会あるいは専門職シンポジウムへの学生の参加を促すこと。

しかしながら、2020年1月以降、新型コロナウイルス感染者が日本でも増加したことを受け、2020年度の授業の実施方法の変更を余儀なくされた。その結果、2020年度予定していた上記②相談援助の基盤

¹ 文部科学省 中央教育審議会 平成23年1月「今後の学校におけるキャリア教育・職業訓練の在り方について」(答申)

² 松田 侑子、濱田 祥子、設楽 紗英子。(2014) 保育系学生における大学適応 一進学動機、キャリア探索の観点から。弘前大学教育学部紀要。112. P81～88

坂井 太原 河内：人間福祉学科における就職支援に対する満足度向上のための方策とその実施・検証についての報告

と専門職の事前学修及び③人間福祉学会については、当初の予定通りプログラムを実施することができなかった。

以上の経緯を踏まえた上で、本報告においては、上記3つのプログラムのうち、2020年度に実施することができた①人間福祉基礎演習の授業について報告する。まずはシラバスの概要を説明し、次に実施したプログラムにおける参加型学修をオンラインで実施した際の工夫を、そして、プログラム前後で実施した学生を対象とするアンケートの内容とその結果等について、さらには今後の課題についても報告したい。

II. 実践内容

1. 「人間福祉基礎演習」シラバスについて

当該科目のシラバスでは、授業のねらいと概要は以下の通りとなっている。

- 1) 大学で求められる基礎的なアカデミックスキル（読む・書く・調べる・聴く・伝えるなど）を修得すること
- 2) 社会福祉の専門の学びに向けたモチベーションの向上を図ること
- 3) 資格取得の方法やコース選択へのアドバイスを通して、キャリア意識の涵養を図ること
- 4) 今後共に学びを進め、深めていく仲間のつながりを構築することを目指して、人間福祉学科の初年次教育の中心のひとつとして位置づけられる

また、到達目標は以下の通りとなっている。

- 1) 社会福祉の仕事や資格等について、また、福祉の学びの内容について理解できる
- 2) アカデミックスキルの内容を理解し、実際に使うことができる
- 3) 自らの現状を客観的にふりかえり、自覚・評価することができる
- 4) グループ活動の中で自らの立ち位置や役割を見いだすことができる
- 5) 主体的な学びの本質について理解できる

2. 「人間福祉基礎演習」授業の実施状況

当該授業は、1年前期木曜日2コマ目に15回実施され、取得単位数は1単位となっている。

2020年度の新入生は、新型コロナウイルス感染症対策のために入学式は中止、その後4月13日と15日の2日間に新入生ガイダンスを実施し、iPad mini の配布や、各国家資格の説明と取得方法の説明、履修登録等に取り組んだ。その後、4月20日からMicrosoft teamsを用いた、原則として非対面（オンライン）の授業が開始され、8月4日の授業終了日まですべて非対面のまま行われた。

3. 「人間福祉基礎演習」をオンライン授業で行うにあたっての工夫

- (1) 卒業生による講話にむけた準備

坂井 太原 河内：人間福祉学科における就職支援に対する満足度向上のための方策とその実施・検証についての報告

授業の初回オリエンテーションにおいて、卒業生の福祉現場の実践報告が授業プログラムの中に組み込まれていることを案内した。当初は、障害福祉施設の生活支援員として勤務する卒業生、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務する卒業生、児童養護施設で勤務経験のある卒業生である本学教員、介護老人保健施設の介護職員として勤務経験のある卒業生である本学教員の計4名をゲストスピーカーとすることを予定していた。これは、1年生の早い段階に、専門職として働いており、かつ比較的年齢の近い卒業生の話を聞くことで、将来自らが専門職として働く上で仕事に対するイメージを具体的なものにするとともに、新入生におけるキャリア意識涵養の目的がある。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、障害福祉施設で勤務する卒業生より、職場から不要不急の外出に対する自粛が申し渡されたため、来学できない旨の連絡が入った。そのため、3名のゲストスピーカーが登壇し、各現場における具体的な仕事内容等について講話をしてもらった。

そして、6月11日の8回目の授業後に、卒業生へ聞きたい内容について、Microsoft forms で回答してもらい、集計した質問内容を卒業生に伝え、学生からの質問にたいする応答を講話の内容に加えてもらうようにした。また、オンライン授業ということもあり、講話の際に画面に写すためのPowerPointによるスライドを作成してもらい、分かりやすさを重視してもらうようお願いした。

(2) 講話の時間の実施状況

6月25日の第10回授業は、児童養護施設で児童指導員としての勤務経験、高齢者福祉施設で介護職員としての勤務経験があり、卒業生でもある本学教員2名の講話であった。7月2日の第11回授業は、病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務している卒業生の講話であった。なお、ゲストスピーカーは、大学の個室でMicrosoft teams を使い、スライド資料を提示しながらの講話であった。

4. 「人間福祉基礎演習」授業の卒業生の講話前後の学生に対するアンケートについて

(1) 講話前のアンケート内容

講話前後での学生の意識や認識の変化を把握するため、各回とも前後でアンケートを実施している。まず、2日間の共通のアンケート内容は、以下の通りである。

- 1) 目指している資格にチェックしてください。複数回答可 (社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、こども音楽療育士、介護福祉士実務者研修)
- 2) 現在、関心のある職場(分野) にチェックしてください。複数回答可 (高齢者福祉、児童福祉、障害児者福祉、精神障害者福祉、地域福祉、医療福祉、司法福祉)
- 3) 現在、関心のある職種にチェックしてください 複数回答可 (保育の仕事、介護の仕事、相談援助の仕事)

次に、6月25日独自のアンケート内容は、以下の通りである。

- 4) ①児童養護施設（児童指導員）の仕事を理解していますか？（全く理解していない・あまり理解していない・少し理解している・理解している・とても理解している）
- ②高齢者福祉施設（介護職員）の仕事を理解していますか？（全く理解していない・あまり理解していない・少し理解している・理解している・とても理解している）

7月2日独自のアンケート内容は以下の通りである。

- 5) 病院（医療ソーシャルワーカー）の仕事を理解していますか？（全く理解していない・あまり理解していない・少し理解している・理解している・とても理解している）

(2) 講和後のアンケート内容

2日間の共通のアンケート内容は、以下の通りである。

- 1) 本日の講話を聴いて、関心のある職場(分野)に変化はありましたか？（はい・いいえ）
- 2) 本日の講話を聴いて、関心のある職場(分野)にチェックしてください。複数回答可（高齢者福祉、児童福祉障害児者福祉、精神障害者福祉、地域福祉、医療福祉、司法福祉）
- 3) 本日の講話を聴いて、関心のある職種に変化はありましたか？（はい・いいえ）
- 4) 本日の講話を聴いて、関心のある職種にチェックをしてください。複数回答可（保育の仕事、介護の仕事、相談援助の仕事）

次に、6月25日独自のアンケート内容は、以下の通りである。

- 5) 児童養護施設（児童指導員）の講話を聴いて、どのくらい仕事を理解できましたか？（全く理解できない・あまり理解できない・少し理解できた・理解できた・とても理解できた）
- 6) 高齢者福祉施設（介護職員）の講話を聴いて、どのくらい仕事を理解できましたか？（全く理解できない・あまり理解できない・少し理解できた・理解できた・とても理解できた）
- 7) 児童養護施設（児童指導員）の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか？（はい・いいえ）
- 8) 質問7)で、「はい」と答えられた方は、知りたい内容を記入してください
- 9) 質問7)で「いいえ」と答えられた方は、理由を記入してください
- 10) 高齢者福祉施設（介護職員）の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか？（はい・いいえ）
- 11) 質問10)で「はい」と答えられた方は、知りたい内容を記入してください

7月2日独自のアンケート内容は以下の通りである。

- 15) 病院 (医療ソーシャルワーカー) の講話を聴いて、どのくらい仕事を理解できましたか? (全く理解できない・あまり理解できない・少し理解できた・理解できた・とても理解できた)
- 16) 院 (医療ソーシャルワーカー) の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか? (はい・いいえ)
- 17) 「はい」と答えられた方は、知りたい内容を記入してください
- 18) 「いいえ」と答えられた方は、理由を記入してください
- 19) 病院 (医療ソーシャルワーカー) の職業を目指す際に、どのような勉強や経験が必要だと思いますか?

(3) アンケートの回収方法

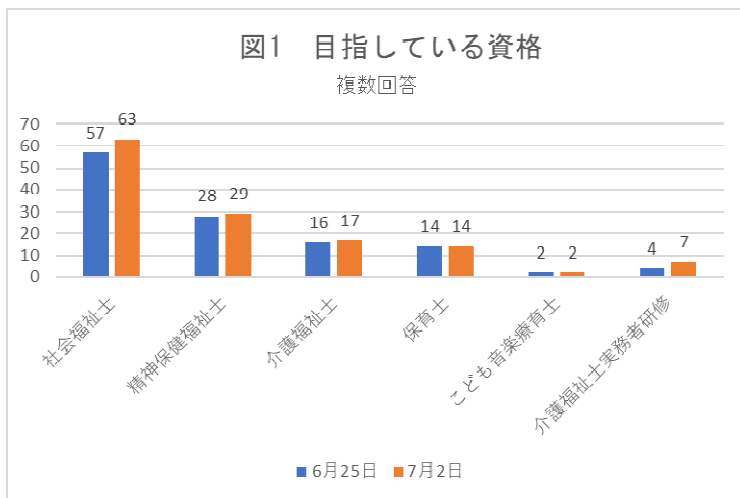
授業開始後アンケートについて説明し、Microsoft teams 上の forms 上で受講生が各自で記入する。記入のタイミングは講話開始前と終了後である。

5. アンケート結果

(1) 6月25日と7月2日のアンケート結果

1) 目指している資格～6月25日と7月2日の講話前の比較～

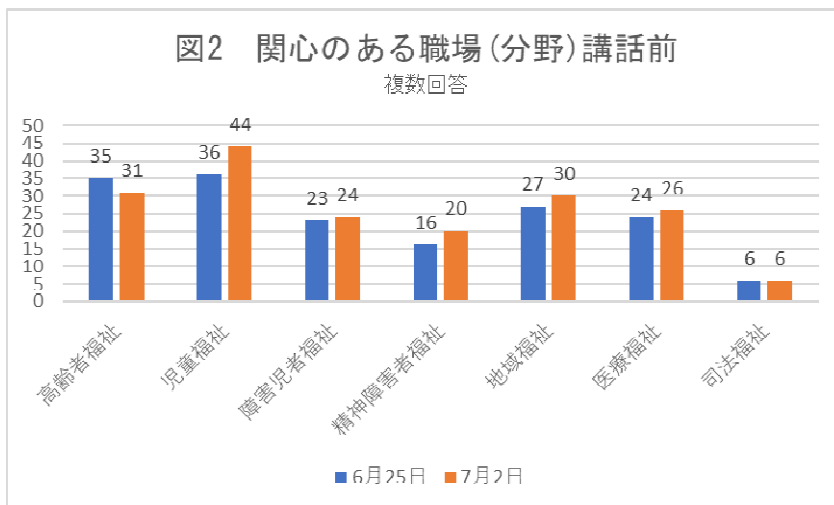
回答者数は、6月28日65名、7月2日66名であった。複数回答可の目指している資格は、社会福祉士は6月25日57名、7月2日は63名であった。精神保健福祉士は6月28日28名、7月2日は29名であった。介護福祉士は6月25日16名、7月2日は17名であった。保育士は6月28日14名、7月2日は14名であった。こども音楽療法士は6月28日2名、7月2日は2名であった。介護福祉士実務者研修は6月28日4名、7月2日は7名であった。(図1)。



2) 関心のある職場(分野)～6月25日と7月2日の講話前の比較～

6月25日の講話前の回答者数は65名、7月2日の講話前は66名であった。

複数回答可の講話前の目指している関心のある職場(分野)は、高齢者福祉は6月28日35名、7月2日は31名であった。児童福祉は6月28日36名、7月2日は44名であった。障害児者福祉は6月28日23名、7月2日は24名であった。精神障害者福祉は6月28日16名、7月2日は20名であった。地域福祉は6月28日27名、7月2日は30名であった。医療福祉は6月28日24名、7月2日は26名であった。司法福祉は6月28日6名、7月2日は6名であった(図2)。



3) 関心のある職場(分野)の変化の有無

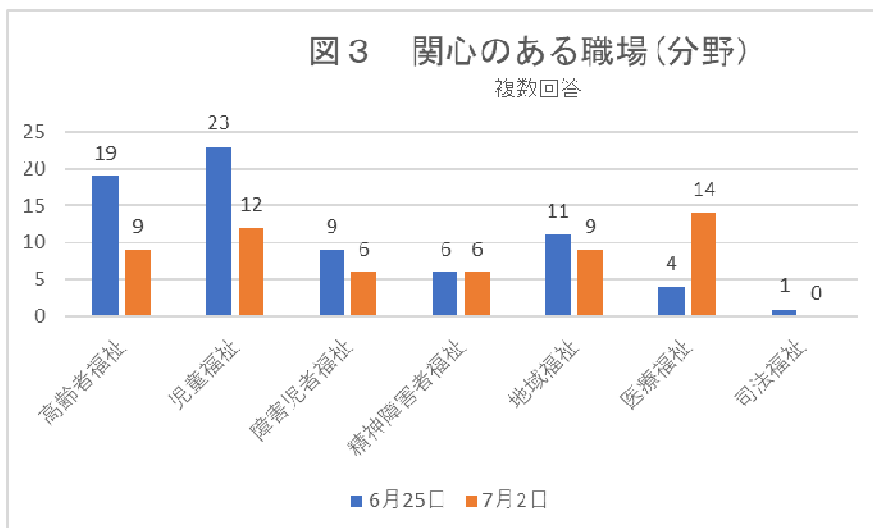
6月25日の講話後の回答者数は59名、7月2日講話後は55名であった。

6月28日は、「はい」が30名、「いいえ」が29名であった。7月2日は「はい」が17名、「いいえ」が38名であった。

4) 関心のある職場(分野)～6月25日と7月2日の講話後の比較～

6月25日の講話後の回答者数は59名、7月2日の講話後は55名であった。

講話後の目指している関心のある職場(分野)は、高齢者福祉は6月28日19名、7月2日は9名であった。児童福祉は6月28日23名、7月2日は12名であった(※複数回答可)。同様に障害児者福祉は6月28日9名、7月2日は6名であった。精神障害者福祉は6月28日6名、7月2日は6名であった。地域福祉は6月28日11名、7月2日は9名であった。医療福祉は6月28日4名、7月2日は14名であった。司法福祉は6月28日1名、7月2日は0名であった(図3)。

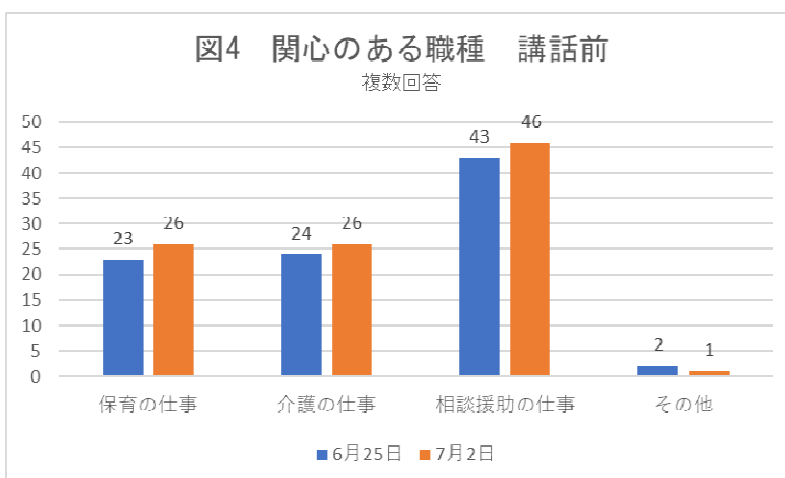


5) 関心のある職種～6月25日と7月2日の講話前の比較～

6月25日の講話前の回答者数は65名、7月2日の講話前は66名であった。

講話前の関心のある職種(複数回答可)は、保育の仕事は6月28日23名、7月2日は26名であった。

介護の仕事は6月28日24名、7月2日は26名であった。相談援助の仕事は6月28日43名、7月2日は46名であった。その他は6月28日2名、7月2日は1名であった(図4)。



6) 関心のある職種～6月25日と7月2日の講話後の変化の有無～

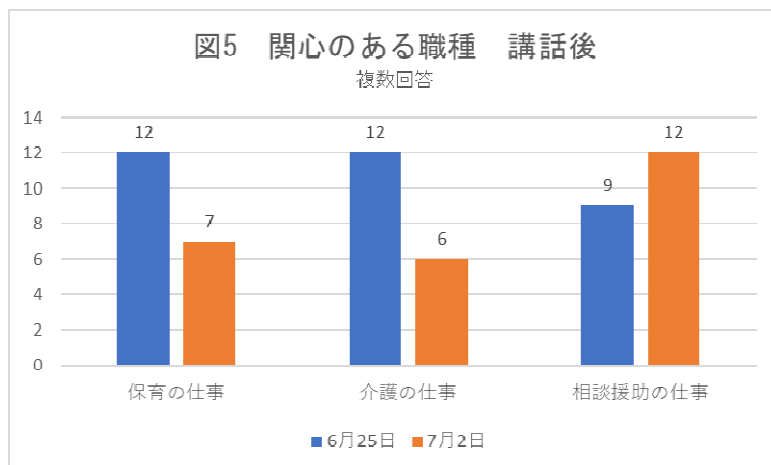
6月25日の講話後の回答者数は59名、7月2日の講話後は55名であった。

6月28日は、「はい」が21名、「いいえ」が38名であった。7月2日は「はい」が14名、「いいえ」が41名であった。

7) 関心のある職場(分野)職種～6月25日と7月2日の講話後の比較～

関心のある職種に変化があったと答えた人のうち、6月25日の講話後の回答者数は21名7月2日の講話後は14名であった。

講話後の関心のある職種(複数回答可)は、保育の仕事は6月28日12名、7月2日は7名であった。介護の仕事は6月28日12名、7月2日は6名であった。相談援助の仕事は6月28日9名、7月2日は12名であった。その他は両日とも0名であった(図5)。



8) 児童養護施設(児童指導員)の仕事の理解について～6月25日講話前後の変化～

6月25日の講話前の回答者数は65名、講話後の回答者数は59名であった。

講話前の児童養護施設(児童指導員)の仕事の理解は、全く理解していない1名、あまり理解していない18名、少し理解している40名、理解している4名、とても理解しているは2名だった。

講話後の理解は、全く理解できない0名、あまり理解できない0名、少し理解できた14名、理解できた32名、とても理解できた13名であった。

9) 高齢者福祉施設(介護職)の仕事の理解について～6月25日講話前後の変化～

6月25日の講話前の回答者数は65名、講話後の回答者数は59名であった。

講話前の高齢者福祉施設(介護職)の仕事の理解は、全く理解していない1名、あまり理解していない6名、少し理解している40名、理解している14名、とても理解しているは4名だった。

講話後の理解は、全く理解できない0名、あまり理解できない1名、少し理解できた13名、理解できた30名、とても理解できた15名であった。

坂井 太原 河内：人間福祉学科における就職支援に対する満足度向上のための方策とその実施・検証についての報告

10) 病院（医療ソーシャルワーカー）の仕事を理解について～7月2日講話前後の変化～

7月5日の講話前の回答者数は67名、講話後の回答者数は55名であった。

講話前の病院（医療ソーシャルワーカー）の仕事の理解は、全く理解していない2名、あまり理解していない19名、少し理解している42名、理解している4名、とても理解しているは0名だった。

講話後の理解は、全く理解できない0名、あまり理解できない0名、少し理解できた25名、理解できた4名、とても理解できた0名であった。

11) 児童養護施設（児童指導員）の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか？～6月25日講話後の変化～

回答者数は59名で、はいが52名いいえが7名であった。

「はい」の回答者の知りたい内容には、子どもや保護者との関わり方やもっと詳しい事例を知りたい等の項目が多かった。

「いいえ」の回答理由は、十分理解ができたため。もう目指している分野があり、児童福祉分野ではないためという記述がほとんどであった。

12) 高齢者福祉施設（介護職員）の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか？～6月25日講話後の変化～

回答者数は59名で、はいが50名いいえが9名であった。

「はい」の回答者の知りたい内容には、利用者との関わり方、トラブルや事故、対応が難しい場合の対処法などの質問や職場の人間関係のつくり方等の質問が多かった。

「いいえ」の回答理由は、しっかり理解ができたから。目指している分野ではなく、関心がなかったという記述であった。

13) 病院（医療ソーシャルワーカー）の仕事の講話を聴いて、もっと深く知りたいと思いましたか？～7月2日講話後の変化～

回答者数は55名で、はいが44名いいえが11名であった。

「はい」の回答者の知りたい内容には、具体的なケースでの対応方法や仕事のやりがい、連携職員との信頼関係の築き方などの質問やどの病院にもソーシャルワーカーはいるのか？求人はあまり出ないのか？といった内容もあった。

「いいえ」の回答理由は、しっかり理解ができたから。将来医療ソーシャルワーカーになりたいとは思っていないという記述であった。

14) 児童養護施設（児童指導員）の職業を目指す際に、どのような勉強や経験が必要だと思いますか？～

6月25日講話後の記述～

回答者数は59名で、子どもの育ちや心理面等での理解、保護者への支援等の意見も多かったが、それと同じくらい、子どもの見本となれるような社会常識やマナーを身につける、人として話を聞く力や聞く力、自分のことを知る力、マナーやリフレッシュ方法、ボランティアなどの経験など自分自身の資質向上や自己理解に関する項目も多くあがっていた。精神障害や法律・制度、地域の社会資源などの意見もあった。

15) 高齢者施設（介護職員）の職業を目指す際に、どのような勉強や経験が必要だと思いますか？～6月25日講話後の講話後の記述～

回答者数は59名で、高齢者福祉施設（介護職）については、高齢者の疾病等の理解やコミュニケーションのとり方、介護技術、実践経験が必要との意見が多くみられた。中には、目上の方への接遇や身体だけでなく心理的なサポート等の意見もあった。児童福祉施設に比べ、自己覚知等の自身の資質向上や自己理解の記述が少なく、利用者理解の記述が多くみられた。

15) 病院（医療ソーシャルワーカー）の職業を目指す際に、どのような勉強や経験が必要だと思いますか？～7月27日講話後の記述～

回答者数は55名で、相談援助方法や法律・制度・サービスについての知識、医療的な知識、という意見が多くあった。また、様々な年代の患者の状況を理解できるよう、ボランティア活動やアルバイトなど学外活動とおし多くの人との関わりを持つことで、接し方やコミュニケーションのとり方を知ることが大切であるという項目がみられた。

Ⅲ. 考察

大学での職業教育の充実が求められ、本学の全学的な取り組みとしては、業界研究セミナーやOG座談会などの実施があり、また、人間福祉学科でも夏期休暇中のボランティアへの参加や人間福祉学会等、様々な取り組みを計画している。これらの取り組みが、学生の大学生活の目標設定や就職支援につながり、満足度を向上できているのか検証を行うことを目的に行った活動結果の一部を報告した。

今年度は、オンライン授業や例年計画しているプログラムが中止となる中、人間福祉基礎演習で、福祉現場の講話を行い、受講前後の理解度や関心の度合いなどをアンケートで回答してもらった結果、発表者の分野の理解や関心は深まっていることがアンケート調査結果で明らかとなった。また、関心のある分野に対して、これから必要となる知識についても考えるきっかけとなった。これらのことから本活動が、学生の福祉現場の理解、将来の目標や大学生活での目標設定につながり、定期的に取り組むことで学生にとって職業像を意識的に考える機会になったとして、一定の評価を与えることができるのではないかと考える。今回の講話はオンラインでの実施であり、実際に会うことができないことから、報告

坂井 太原 河内：人間福祉学科における就職支援に対する満足度向上のための方策とその実施・検証についての報告

者および聴講者のリアルな感情や空気がライブで感じることが少ないというデメリットもあった。しかし、同意を得てレコーディングを行い、学生がその映像に自由にアクセスし、聴講しなおすことができるようにしたことで理解度を高めることができたのは、教育上のメリットであったのではないかと考える。

今年度のBMSの達成目標、すなわち、「学生各自が将来像を描くことのできるプログラムを策定し、実施・検証すること」に関しては、新型コロナウイルス感染防止のため、実施できたプログラムが1つしかなかったものの、これに関しては実施・検証まで行うことができた。

IV. 今後の課題

本年度は、上記②ボランティア活動の課題や③人間福祉学会等が実施できなかったため、学生は、福祉現場に触れる機会や実際の福祉現場の人との交流・情報交換の時間をもつことができなかった。本BMSのプログラム外でも、ボランティア活動への参加を促す連絡は例年多く、大学の掲示板や授業等で案内し、参加する学生が多かった。しかし、今年度に限っては外部からのボランティアのお知らせもほとんど届くことがなく、大学もオンライン授業が中心であったことから、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点からも、ボランティアや見学を奨励することがなかった。このような状況の中、大学やアルバイト、福祉現場等様々な人と交流する機会を失った学生の損失は計り知れない。今後、この状況がどのように変化するかの見通しを立てるには時期尚早であるが、現下のような状況においても、人間福祉学科としては、学生が将来像をイメージする機会や福祉現場の仕事や資格について知る機会をこれまで同様、あるいはそれ以上に提供する責務があるとの思いを強めている。

折しも、2021年度より、社会福祉士・精神保健福祉士の養成カリキュラムが新カリキュラムとなり、現在開講している科目や開講年次が変更される。次年度以降については、再度カリキュラムを精査・確認し、「就職支援に対する満足度向上のための施策の策定と実施・検証」を行うためのプログラムを見直すとともに、今後、オンラインのさらなる活用も視野に入れながら、現状において最大限取り組むことができることは何か、そして、実施検証方法についてどういったものが相応しいのかについて検討していくことが必要である。